令和４年度第３回四街道市子ども・子育て会議　会議録（概要）

日　　時　　令和４年１１月１７日（木）１４時００分～１５時００分
場　　所　　四街道市役所５階第１・２会議室
出席委員　　伊藤会長、安部委員、青柳委員、片山委員、千脇委員、利光委員、
　　楠岡委員、林委員、森委員、棚橋委員、笹原委員、阿部委員
欠席委員　　村井委員、窪委員、冨樫委員
事 務 局　　山﨑健康こども部長、川田健康こども部副参事
　　子育て支援課：笠松課長、能勢課長補佐、石川主任主事
　　保育課　　：新田課長、下山課長補佐、塚本主任主事
傍 聴 人　　３人

－－－　会議次第　－－－
１　開　　会
２　会長挨拶
３　部長挨拶
４　議題
　・四街道市こどもプラン～第２期子ども・子育て支援事業計画～の中間年の見直しについて【資料１、２】
５　そ の 他
６　閉　　会

－－－　議事概要　－－－

〇開会

〇会長挨拶

〇部長挨拶

〇会議の公開・非公開の決定、会議録の作成について

伊藤会長　　本日は傍聴希望者がいる。本日の議題については、会議の公開により、議事運営に著しい支障が生じるとは認められないため、会議を公開とすることとし、会議資料についても、傍聴人に配布することとしてよろしいか。
　　《異議なし》

伊藤会長　　会議録の発言者名は、会議の公開に関する規定により明記することとなっているため、本会議においても同様とする。

〇議題　四街道市こどもプラン～第２期子ども・子育て支援事業計画～の中間年の見直しについて

伊藤会長　　議題「四街道市こどもプラン～第２期子ども・子育て支援事業計画～の中間年の見直しについて」事務局より説明をお願いする。

事務局　　《資料１、２について説明》

伊藤会長　ただいまの説明について何か質問はあるか。

林委員　保育士や給食室の先生、事務員などの確保にあたっての対策はしているか。

事務局　保育園に関しては、国の制度を活用しながら、保育士の宿舎借り上げ、家賃補助をしている。県内のすべての自治体が実施しているのではなく、保育士不足に悩んでいる半分以下の自治体が実施しており、四街道市も取り組んでいる。こどもルームに関しては、今年度から運営事業者を１社から２社に増やしたため、それぞれの会社で人材の確保に努めていることから、今までに比べればスムーズにいくと考えている。

棚橋委員　こどもルームについて、令和３年度に和良比小に１ルーム増やし、移転して定員数も増やしていただいた。四和小は８人定員増となっている。子ども１人当たりの面積の指針が示されていると思うが、それを踏まえた定員増なのか。

事務局　１人当たり１．６５㎡の基準がある。四和小については、早急に施設を増やすことは難しい敷地状況にあったが、こどもルームの中を実測し、１．６５㎡の基準を満たす状況で８人の定員を増加できると判断したため、定員の増加を行った。

楠岡委員　保護者のニーズだけで保育園を増やしていくことを決めるのは危険。子どもたちのことを考えて決めていかなければいけない。０～２歳児は母親のそばで愛情を受けないといけない時期。しかし、働かないといけない現状もわかっている。保育園だけを勧めるのではない、働くことだけを勧めるのではない、働かないといけないが何かいい方法はないかと、子どもたちのために考えることが必要。幼稚園は教育の場。園庭、部屋の広さ、教育内容など、決められた基準を守り、４時間という短い時間に必要な教育を行っている。そうした幼稚園の良さは必要である。数字を見ると、幼稚園の減少傾向がしっかり表れている。それに対して何かを考えてくれているというのは見えてこない。今一度お考えいただきたい。

事務局　今回の中間見直しについては、あくまでも国の通知などに基づき推計をし、今後の傾向に対してどのように対応していくのか示すもの。中間見直しに限らず、保育所整備等の際には、必ず、１歳単位での推計、入所の状況等から整備の必要性を判断して進めている。保育所が過多にならないかどうか慎重に内部で検討している。また、幼稚園の教育の良さを周知する手段として、本年度から、保育所の入所を希望する方に配布するしおりに幼稚園の情報を加え、全員に配布している。幼稚園と保育所が共存していければと考えている。

安部委員　資料１の９ページ、こどもルームについて。令和５年度以降の見通しでは、量の見込みの方が確保の内容より多く、不足が発生している。しかし、文章では「各こどもルームの稼働状況にばらつきがあるため、過不足が生じています。」と説明されており、数字上は不足しているが実際には入れると読み取れる。転入生があったときにも、保護者が働いていれば入れると考えてよいのか。

事務局　定員を上回る申し込みがあっても、実際に利用するのはその内の６．５割～７割ほど。施設を過多につくるわけにもいかないため、利用率も加味して見直し

の数値を作成した。こどもルームに預けなければ働けない保護者の方もいるため、そういった希望に対応できる確保の内容となっている。

千脇副会長　前々回、保育無償化により保育園に行く子どもが増えているのではないかと発言した。保育園に行く場合には補助が出るが、保育園に行かず家庭で保育する場合には補助が出ないことについて考えるだけで何か変わるのではないかと提案したが、その後、課で話し合いをしたか。

事務局　以前ご意見いただいた時は、国の方針に基づき無償化を行っているとお答えした。その後、担当者レベルで話し合いを行った。保育無償化については国の制度として補助金が出ているが、家庭保育を行う保護者に対して、市の単費で独自に補助を行うのは難しいと考えている。

笹原委員　資料２の２ページ、児童推計について。令和４年度の児童数が０～２歳は計画値を実績値が上回っていて、３～１１歳は計画値を実績値が下回っているのはなぜか。令和５年度は０～３歳は計画値よりも増えるよう見直しされていて、４～１１歳は計画値よりも減るよう見直しされているのはなぜか。これは計算上のことなのか、何か要因があってのことなのか。

事務局　特に要因はなく、計算上のもの。令和２年度の０歳は令和３年度の１歳、令和４年度の２歳、令和５年度の３歳と、１歳ずつ年を取っていく。令和２年度の時点でズレが生じていると、そのまま次年度以降に反映され、修正が大きくなる。

〇その他

伊藤会長　事務局より何かあるか。

事務局　今後の会議の開催予定について説明する。次回は令和５年２月２日（木）午後を予定している。回数、開催時期については、あくまでも現時点での想定であり、今後の審議事項の発生や会議での審議状況次第で変更となる場合もある。開催の際に１ヵ月前には皆様にお知らせする。

伊藤会長　最後に全体を通して何かあるか。

笹原委員　こどもルームによっては、勉強をしておとなしくしているところと、大騒ぎして先生も手が付けられないところとがあると思う。そのような状況は把握しているか。また、騒ぎを起こす子どもへの対処法を考えているか。

事務局　利用者の保護者やルーム支援員の意見は聞いており、実態の把握に努めている。学童保育は一定のスタイルというものがない点が難しい。学校が教育の場を提供するのに対し、こどもルームは生活の場を提供する。そこで宿題をしてもいいし、遊んでもいい。ケガをすることがないよう、現場の支援員がさまざまに配慮をして運営している。

阿部委員　ぎんがルームで支援員をしている。子どもたちは学校や家では気を使って過ごしているようなので、こどもルームではリラックスして過ごせるような保育を考えている。支援員によって考え方は違うので、その違いが各ルームの雰囲気を作っているのではないかと思う。元気なのが子どもの特徴であり良さである

ので、集団で生活するときにはある程度ルールが必要だが、子どもはなかなか自分でコントロールができない。それが、４月から継続してみていると、成長に伴ってできるようになってくる。
ただ、利用者は増えてくるのに支援員の定着率が悪い。こどもルームで生活を見ていくことの大変さのためだと思う。大変なことがあると辞めてしまう人が多いので、何年も続けられる人は少ない。定着率が悪いことと、午後の仕事なので現役のお母さんお父さんが就きにくい仕事であることから、支援員が高齢化している。利用者は１年生が多いため年齢のギャップが大きいのも厳しい仕事である。
あまりに大勢の中で過ごすのはよくないので、定員を守って、子どもたちも安定できるように環境を整えることが大切。そのためには建物と支援員の確保を、事業者に任せるだけではなく、市も定期的に点検していただきたい。

安部委員　退職した校長がこどもルームを回って、把握した現状を学校に来た際などに伝えてくれていた。内容によっては、学校での様子とあわせて情報共有・連携し、支援員と話をしたりすることもある。そういった意味で状況把握はできている部分もあると思う。

〇閉会

伊藤会長　以上で本日の子ども･子育て会議を終了する。